

精神的紀念事業論

325

384



始



精神的紀念事業論

325-384



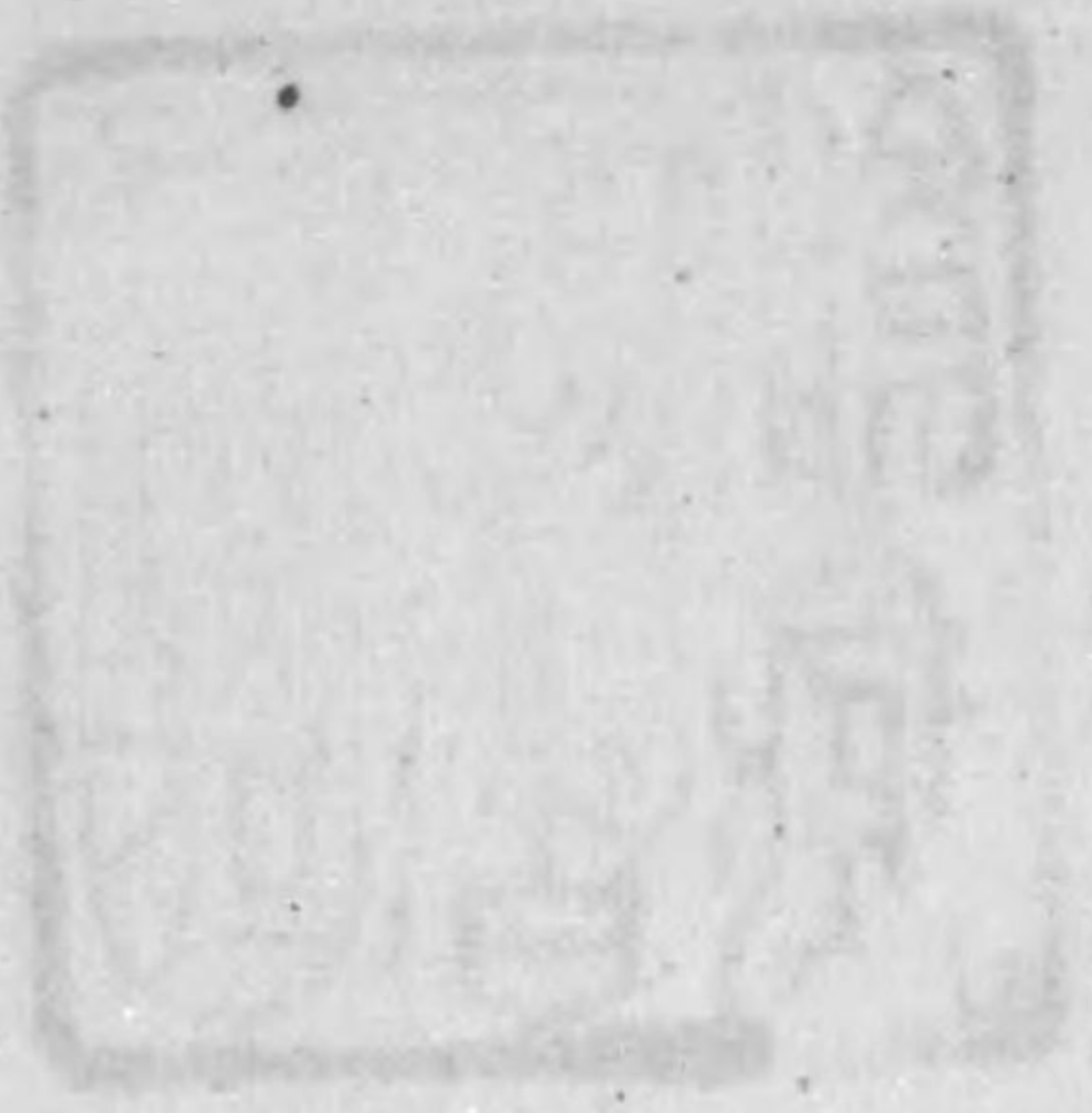
序 言

本年ノ御即位御大典ヲ動機トシテ紀念事業ヲ起サントテ我ガ青年會長ハ滿腔ノ熱誠ヲ以テ獎勵セリ然レ而メ會員中ニハ其ノ紀念事業ノ方法ニ付テ或ハ物質的ニ或ハ精神的ニ其ノ說區々ニ涉リテ一定セズ依テ之レカ賛否ヲ試ミシニ結局精神的事業ニ決ス故ニ其ノ精神的事業方法ハ如何ニスヘキヤノ問題ニ移リシニ是レ亦異論百端終ニ時過リテ行ニ及バト雖モ余ハ是レニテ満足シ難シ依テ更ニ村青年會ノ事業トシテ目下研究ヲ行フニ修養シテアル宗教的意見ヲ各方面ヨリ本文ニ至リテ論シ獨リ青年會員而已ナラズ役場吏員學校教員村會議員軍人會員等各位ノ同意ヲ仰キ併セテ宗教家ノ覺醒ヲ促シントス讀者幸ニ文ノ拙ナルヲ以テ捨テズ其ノ主義ノ存スル所ヲ取り給ヘ



大正四年十一月十日

大 西 唯 治 郎 識



精神的紀念事業論

目次

一、内務省ノ方針……………	一
二、佛教ニ對スル大臣ノ挨拶……………	三
三、教育家ニ無靈魂主義ノ者多數ナル理由……………	六
四、教育家ノ僧侶佛陀ニ對スル感想……………	一八
五、青年輩ノ僧侶佛陀ニ對スル感想……………	二一
六、一般人ノ僧侶佛陀ニ對スル感想……………	二三
七、食ハズ嫌ヒ……………	二四
八、來世有リト信スルト無シト信スルト孰レガ勝利ヲ得ルヤノ目ノ子算用……………	二六
九、倫理上宗教ヲ信ゼザルヲ得ズ……………	二七

二

十、佛教徒ノ覺醒ヲ促ス……………三二

十一、教育ト宗教トノ調和……………三一

十二、精神的紀念事業ノ方法ヲ論ス……………三三

十三、結 論……………三五

精神的紀念事業論

大西唯治郎 著

内務省ノ方針



明治四十二年ニ内務省地方局長ハ歐米視察ヨリ歸朝シテ曰ク「今回ノ視察ニヨリ大ニ感シタルハ歐米人ノ上下貴賤ヲ論セズ宗教的信仰心ヲ有シ此ノ信仰心ガ各種事業ノ上ニ歷々ト發揮サレツ、アル事ナリコレヲ我國ノ公共的慈善事業ニスラ私曲行ハル、ニ比ネレバ天地ノ差アルモノニシテ我國民ニ信仰心ヲ養成セシムルノ急務ナルヲ感ズ

レトコレニ因テ思ヒ合スニ近來内務省ノ方針ハ從來輕侮シ且ツ疎遠シ來リタル宗教ニ漸ク重キヲ置キ殊ニ歴史的ノ深キ因縁アル佛教ニ眼ヲ注キ幾万ノ寺院ト幾十万ノ僧侶等ヲ改良改善シテコレヲ地方改良、社會改善ノ道ニ當ラシムル一ノ機關トセントスルガ如キニ似タリ則チ我ガ六郷小學校ニ於テモ曩ニ郵便据置貯金獎勵ニ付テ天本梅可師

ノ講演アリ又衛生講話ニハ蓮井玄聽師アリ猶又特殊部落ノ改善ニ付テ岡本道壽師ノ講演アリ是レ等皆宗教家ニアラズヤ因ニ大正二年拾壹月七日郡青年會ニ於テ大隈重信伯ノサレシ講演ノ一節ヲ掲記ス

前略……………先ツ日本デハ武力ガ第一デアアル尙武ノ國デアアル即チ武力ヲ振フテ國威ヲ輝カサネバナラヌ神武天皇様モ武デアアル武ガ根元デアアルシカシ武而已デハ不可コレニ文ヲ加ヘネハナラヌ政事デアレ法律デアレ文ヲ以テ國ヲ治メ即チ文武兩道デナケネハナラヌコレガ即チ武士道デアアル然ルニマダ〱文ト武ト而已デハ眞ノ文明トハ云ハレヌコノ文ト武トノ上ニ宗教ヲ加ヘネハナラヌ宗教ノ信念ガナクテハ人間ノ土臺ガ据ハラヌ一ノ安心ガナケレハ精神ガ薄弱デ眞面目ノ働キガ出來ルモノデナヒ故ニ文ト武ト宗教トノ三ツ揃フタ所デコレヲ名ツケテ文明ト云フ……………後略

二 佛教ニ對スル大臣ノ挨拶

大正二年六月官制改革ノ結果宗教局ヲ内務ノ所管ヨリ文部省ニ移サレ當時奥田大臣ヨリ各派ノ管長ヲ招待シ左ノ如キ挨拶アリタリ

今回宗教局ヲ文部省ニ移サレタルニ付テハ世間種々揣摩臆測チ爲ス者アレト別ニ深キ理由ノアルニ非ス元來宗教ハ信仰ヲ基トスルモノニテ教育トハ本來ノ性質ニ於テハ異ナルモ而モ依テ以テ世人ヲ教化シ世道人心ヲ扶持スルノ作用ニ至リテハ宗教、教育ハ表裏相須テ欠ク可ラサルモノナルニヨリ一省ノ下ニ管理スルノ自然ニシテ……………中略……………只各位ハ其ノ奉セラル、宗旨ニ從フト同時ニ國體ヲ尊重シ能ク世人ヲ教化スルコトニ努メラレ以テ教育ト相俟テテ世道人心ヲ扶持スルノ實効ヲ舉ケラレシコトヲ望ム云々ナリ

是レニ依テ之ヲ觀ルニ教育ト宗教トハ密接ノ關係アレバ倍々相提携シテ腐敗セル人心ヲ扶ケテ倫理道德ヲ挽回スヘシトノ主意ナリ然ルニ從來教育家ト宗教家トハ意見ノ衝

突スル傾向アリテ水ト油トノ如キ感ヲ脱スルヲ得ズ之レ他ナシ教育ト宗教トヲ比較スレハ雙方一致スルトコロモアリ又比較上相違スルトコロアル事モ事實ノ上ニ於テ疑ハレヌ次第デアルニヨルコノ事柄ニ付テハ去ル明治三拾九年八月ニ文學博士村上專精師ハ宗教ト教育ノ標題ニ就キ縷々數千言ヲ重ネテ論セラレタリ左ニ其ノ項目ヲ摘記シテ護國愛理ノ志アル人士ノ參考ニ供セントス

相違ノ條件

- 一、教育ハ國家主義ノモノナリ宗教ハ比較的ニ國家主義ノモノニアラス寧ロ世界主義ノモノ也
- 二、教育ハ實驗主義ノモノナリ宗教ハ比較的ニ實驗主義ノモノニアラス寧ロ信仰主義ノモノ也
- 三、教育ハ開發主義ノモノナリ宗教ハ比較的ニ開發主義ノモノニアラス寧ロ保守主義ノモノ也

四、教育ハ現世主義ノモノナリ宗教ハ比較的ニ現世主義ノモノニアラス寧ロ未來主義ノモノ也

五、教育ハ中年以下ノ者ヲ相手トナス宗教ハ中年以下ノ者ニ限ラズ寧ロ中年以上ノ者ヲ相手トナス傾向アルモノ也

一致ノ條件

- 一、宗教モ教育モ共ニ天然ト人爲トヲ調和セシメントスル所ニ於テ成立シテ居ルモノデアリマス
- 二、宗教モ教育モ共ニ衛生法ニ注意シ體格ノ健康ヲ要スルモノデアリマス
- 三、宗教モ教育モ共ニ知識ノ發展ヲ要シ思想ヲシテ成ルベク高尚ナラシメントスルモノデアリマス
- 四、宗教モ教育モ共ニ倫理ノ實踐ヲ要シ人類トシテノ品性ヲ成ルヘク完ウセシメントスルモノデアリマス

五、宗教モ教育モ共ニ慈悲主義ノモノデアリマス而モソノ好結果ハ人格ノ感化ニ依ルモノデアリマス 以上

如上ノ通り宗教ト教育トハ一致ノ点モアリ相違ノ点モアルニヨリテ宗教家ト教育家ハ主義ノ異ナル所ヨリ或ハ意見ノ衝突スル場合アルモ無理ナキコト、思ハル年併政府ノ方針ヲ体シ兩者勉メテ意志ノ疏通ヲ謀リ大正聖代ノ鴻恩ニ感泣シ恩德ニ報答セズレバアル可ラスデアアル

三 教育家ニ無靈魂主義ノ者多數ナル理由

教育家ハ科學ノ方面ニ發達シテ哲學、宗教ノ方面ニハ甚タ冷淡デアル何人モ知レル如ク物理、化學、動物、植物、生理、心理ト云フヤウナ種類ノ學術ヲ概シテ科學ト云フ元來科學ト云フモノハ形以下ノ事ノミヲ研究シテ形以上ノ範圍ニハ出ナイノガ規則デアアル而シテ其ノ之ヲ研究スルニ顯微鏡トカ又ハ望遠鏡ト云フヤウナ機械ニカケテ之ヲ

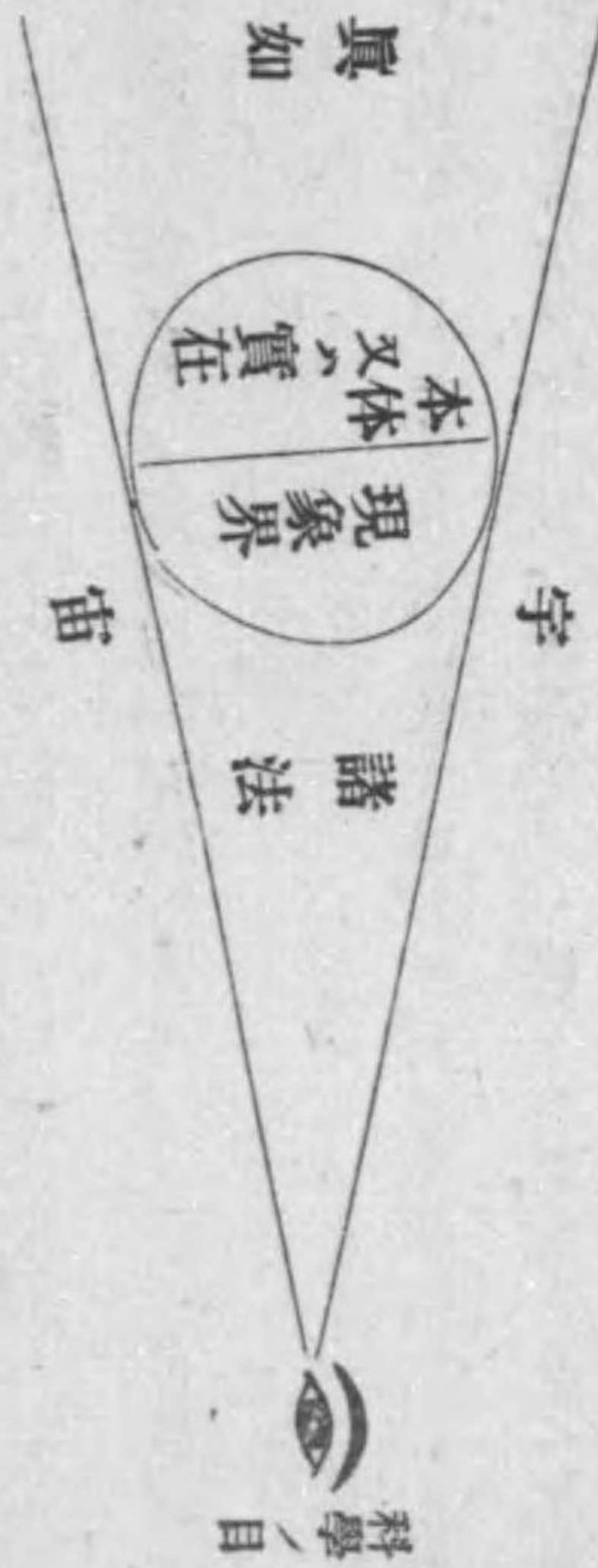
實驗シ又之ヲ試驗シタトコロデ始メテ有ルトカ無イトカト云フコトヲ決定スルノデアツテ凡ソ實驗以外ノ事ハ皆妄想デアアル未ダ試驗セザル事ハ凡ベテ事實トスル譯ニハ參ラスト云フノガ科學ノ規則デアアル故ニ科學ト云フモノハ實驗試驗ノ證明ヲ要シ竟ニ物質的即チ唯物論ニ歸着セントスルモノデアアル隨テ科學ハ無靈魂主義ヲ取リテ來世無ノ考ヲ懷キ殆ント中江篤介ニ類似セル氣風ノ人ガ漸ク増加セシモノ、如ク見ユルコトニナツテ來タ

情々古代ト現代トヲ比較シテ之ヲ觀ルニ古代ハ比較的ニ來世有ノ考ノ人多ク現代ハ比較的ニ來世無ノ考ノ人ノ漸ク増加シ來レルモノ、如キ徵候アリ蓋シ是レ畢竟科學思想發展ノ影響デアアルト思ハル

去ル明治四拾年八月ニ善通寺靜修女學校ニ於テ文學博士村上專精師佛教概論ノ演題ニテ一週間ノ講演アリタリ其ノ講演中ノ一節ヲ參考迄ニ左ニ掲記スレバ
先ツ世界ノ學文ハ科學哲學即チコノ二類ニ分ル而シテ科學哲學ハ何ヲ研究スルヤト云

フニ科學ハ自然界即チ天地ノ現象ニ就テ説明スルノデアアル形式ヲ以テ示サバ

八



斯クノ如クデアリテ科學ハ器械責デ尋ネ〜テ居ルケレド尙宇宙ノ半面ハ分ラナイ哲
 學ハ科學ノ目ノ達カヌ半面即チ本体ノ方面實在ノ方面ヲ研究シテ居ル然カシ科學哲學
 ノ出立点ハ全世界ノ現象ガ解ラナイト云カラ研究スルノデアアル之ニ反シテ宗教ハ天ヨ
 リモ地ヨリモ先ツ自身ハ何物ゾト研究スルノデアアル即チ宗教ハ自身ノ問題ガ延ビ行テ
 宗教ヲ生成スルノデアアルサレハ自己ノ由テ來ルトコロヲ明ニスル事ガ宗教研究ノ第一
 歩タル順序デアアルソコデ先ツ第一ニ人生ノ靈魂問題ヨリ説明スルコトニナル是ハ最モ

大問題デアツテ容易ニ云フヘキモノデハナイガ大略ヲ辨シヤウ今靈魂問題ヲ三段ニ分
 ケテ説明スルニ

- 一、學術ト靈魂論トノ關係
- 二、宗教ト靈魂論トノ關係
- 三、佛教ト靈魂論トノ關係

宗教トサヘ云ヘハ必ズ靈魂ヲ聯想スル程ニ密着ノ關係アルモノダガ先ツ學術ト靈魂論
 トノ關係ヲ論シナケレバナラナイ夫レニ就テ先ツ科學ト靈魂トノ關係ヲ云ハナケレバ
 ナラナイ即チ科學ハ靈魂ノ上ニハ何等ノ價値ナキモノデアアル科學ハ靈魂以下ノ研究デ
 アル實驗以上ニハ全ク無能力デアアル

近來科學万能主義ト云フコトガアルケレドモ科學ハ物體ノ半面バカリシカ見ル事ハ出
 來ナイ我々ノ目ハ衣服ノ表ヲ見テ裏ヲ見ルコトハ出來ナイ表ヲ見テ裏ガ見エナイカラ
 裏ナシト云フハ誤デアアル科學ハ結構ニ違ヒナイケレド現象ヲ見テ是レ以上ニ何物モナ

九

シト云ハ、誤デアル

科學ハ靈魂以下ノモノダカラ科學ノ門ニ到テ靈魂ヲ問ハ、チャウド酒屋ニ入テ味噌ヲ求メルヤウナモノダ然ルニ社會ノ人ハ靈魂ヲ何所ニ行テ尋ネテ居ルカ諸君ハ何所ニ行テ靈魂ヲ尋ネテ居ルカ科學者ノミナラズ宗教家ガ既ニ科學ノ門ニ靈魂ヲ求メテ居ルモノガアル科學ト靈魂ハ全ク無關係デアアル然ラハ哲學ハ如何哲學ハ實驗ノモノデナクシテ思想ノ自由デアアル思想ノ自由デアアルカラ有形無形ヲ問ハナイノデアアル時ニ靈魂ヲ論シ研究スルケレドモ如何セン哲學者ハ批評的ニ見テ自己ノ本職トシナイダカラ時ニ靈魂論ヲ唱ヘ時ニ又無靈魂ヲ論スルモノデアアル酒ノ受賣ノヤウナモノデアアル茲ニ於テ靈魂論ヲ本職トスルハ宗教デアアルサレバコソ宗教トサヘイハ直ニ靈魂ヲ聯想スル程密着ノ關係ヲ有スルノデアアル然レハ我々ガ靈魂ヲ尋ネント欲スレバ科學ノ門ニ行クベキモノデハナイ又哲學ノ門ニ行クベキモノデハナクシテ宗教ノ門ニ至ルヘキハ條理明白デアアル

宗教界ニ入テ靈魂ヲ如何ニ説クカト云フニ

- 一、基督教ニ入テ靈魂ヲ尋ネ
- 二、印度教ニ入テ靈魂ヲ尋ネ
- 三、佛教ニ入テ靈魂ヲ尋ネ

斯ク三ツニナル云々ナリ……………如斯申シテ行ケハ際限ナク又紀念事業論ガ外ヘ移リテ脱線スルコトニナルカラコノ邊ニテ止ムルコト、シテ他日閑ヲ得テ佛教未來觀ヲ書イテ見タイト思フ

我輩常ニ謂フニ甚タ失禮ノ申分ナルモ學校ノ教師先生及ヒ役場吏員各位ハ職務ニ忙殺サレテ宗教ヲ研究スル餘暇ナク爲メニ食ハズ嫌ヒノ方デ終ニ廣大無邊ナル宗教ノ信念ニ乏シキコトノナキ乎哉ト疑ハル或ハ又仮リニ讀書ノ上ニテ彼ノ排佛家ノ松苗先生ノ佛教ニ對スル批評ヤ小學外篇ニ在ル佛法誹譏ノ句ヤ韓退之ガ憲宗皇帝ニ上リシ佛骨表位ニ依リテ佛教ハ信スルニ足ラズトスルノ士アリトセハ其ノ愚ヲ笑ハザルヲ得ヌコト

ニナル若シ夫レ靈魂滅來世無ナルガ故ニ佛教ハ信ズルニ足ラズト云ハハ斯ハ有史以來世界ノ大問題ニシテコレハ今ニ於テ有無ノ解決ナキノミナラズ將來ト雖モ永ク未解決ヲ以テ終ルカモ知レヌシカシナカラ今日ト雖モ世間多數ノ人ノ中ニ於テ來世必無ノ考ノ人ヨリハ來世必有ノ考ノ人ノ方ガ多イ何ヲ以テ此ノ事ヲ知ルヤト云フニ大正元年十二月ニ東京ノ新佛教同志會ナルモノガ時ノ内閣大臣即チ西園寺侯ヲ始メトシテ山縣有朋公、柱太郎公、平田東助子、大浦兼武子、後藤新平男及ビ大隈重信伯トイフヤウナ堂々タル天下ノ大政治家ヨリ宗教家、教育家、實業家、學者等即チアラユル方面ノ人々ニ向ヒ

一、未來世界ノ有無

二、ソノ有無ヲ斷定スル理由

三、若シ有ナリトセハ其ノ狀態如何

ノ三問題ヲ呈出シ其ノ回答ヲ求メタコトガアル所ガ其ノ明カニ有ト答ヘシモノ六十八

人明カニ無ト答ヘシモノ二十九人アリ又來世亦有亦無ノ回答者及ヒ來世非有非無ノ回答者モアリタリサレバ現今ト雖モ來世有ノ人ノ方ガ多數デアルトノ事實ヲ證明シテ居ルデナイカ右ノ質問ヲ受ケタ人々ハ社會上新知識ノ素養多キ人デアアル然ルニ尙以テ有ノ考ノ人ガ多イ況ヤ新知識ノ素養ナキ下層社會ノ善男善女ニ於テヲヤデアアル殆ンド其ノ全般ハ來世有ノ考デアルト云フテ差支アルマイ
左ニ二三ノ人ノ回答ヲ舉グ

南條博士ノ回答

拜復本月四日附ヲ以テ「來世ニツイテ」トアル問題ノ下ニハ來世ノ有無ソノ理由及ヒ狀態ヲ申上候様御申越ニ候處吾人ハ未ダ來世ノ經驗無之者ニ候間幼年ヨリ聽聞致居候三世因果ノ理法ヲ信ジ且ツ「應信如來如實言」ノ祖語ヲ遵奉シテ來世ニハ往生成佛ノ素懷ヲ遂ゲ還相回向ノ大用ヲモ顯ハシ得ベキコト、確信致居候事ニ
御座候

前田博士ノ回答

一四

拜復來世ニ就テ意見御徵集相成候所拙者ハ來世ハ可有之ト存居リ候ヘ共學問的ニ之ヲ論述スルコトハ今早速ノ間ニ合ヒ難ク候間此段御斷リ旁々申述候也

木下尙江君ノ回答

余ハ來世ノ予ヲ待チツ、アルコトヲ信ス予ハ絶エテ久シキ來世ニ逢ハンガタメニ刻苦勉勵シツ、アリ來世ハ猶戀人ノ如シ此ノ卑心醜情ヲ以テ戀人ヲ見ンコトハ恥ヅカシサノ限リナレバナリ彼ノ女ハ光ナリ予ハ彼ノ女ヲ想フコトニ於テ言フベカラザルノ歡喜ヲ催フス

海老名彈正君ノ回答

尊書拜見仕候來世ニツイテ意見可申述義御申越ノ處大問題ニテ簡單ニ申難上候然シ御雜誌御創刊第六週年ニ相當致候由ナレバ僅ニ一言丈御祝マデニ可申上候問題ハ三段ニ區別シアレバ小生先第一番ハ有ト確答仕候其理由ハ物質スラ不滅況ヤ自

覺ノ不滅ヲヤ分子スラ不滅況ヤ品格ヲヤ神ハ愛ナリ何ゾ其愛子ノ消滅ヲ欲センヤ
第三問題即チ來世ノ狀態ニ付テハ一言ニテ御答可申即チ未詳右御返事マデ草々

加藤弘之君ノ回答

僕ハドウ考ヘテモ來世ガアラウトハ思ハレヌ何故ナラバ今日マテ科學的ニ來世ノアルトイフ證據ガ出テ來ナイカラ

福來友吉君ノ回答

第一未來世界ハナイ

第二理由ハ次ノ三デアル

- 一、未來世界へ行ツタトイハル、人カラ何等ノ通信モナイカラ
- 二、人生ノ科學的説明ノ爲メニ未來世界ノ存在ヲ假定スル必要ガアルナラバ未來ガアリトシテモ宜イガスル必要ハ更ニナイ
- 三、未來世界チ有リトセナケレバ自分ノ苦悶ヲ救濟スルコトガ出來ヌナラ有リ

一五

ト信ズルノデアルガ自分ニ於テハ未來ヲ有リトシテモ自分ノ苦悶ヲソレデ
救済スルコトガ出來ヌ詰リ自分ニハ未來世界ヲ信スル必要ガナイ

谷本博士ノ回答

拜復貴會愈々隆盛ニテ今度機關雜誌創刊六週年紀念號御發行ノ由奉賀候右ニ付御
下問ノ來世ノ義ハ暫ク之ヲ從來ノ普通ノ意味ニ解シ候ヘバ智的論理ノ上ニハ無ト
御答申度候コレ靈魂ノ存在ヲ認メザルト尙且所謂來世ニ關シテハ適當ノ認識法ナ
キガ故カト存候而モ感的論理ノ上ヨリハ依然有ト云フモ差支ナキカトモ存候コレ
ハ畢竟人間本能ニ由ル迷トデモ可申哉其狀態ハ固ヨリ不定ニテ或ハ舊佛教ノ地獄
極樂ノ様ニモアリ或ハ又ダンテノ詩ナドノ様ニモアルベシ孰レニテモ大差ナク候
カ小生自身ハ今日ハ此ノ迷信殆ソド根絶致居候不取敢御答迄勿々不一

杉村縦横君ノ回答

來世ガ有ルト云フノモ外道ナラ無イト云フノモ亦外道ダ有ルカ無イカ分ラヌト云

フニ至リテハ外道中ノ大外道デアル一體來世ニ限ラズ現在デモ過去デモ是非トモ
之ヲ有ルトカ無イトカ云フ小ナル愚ナ範疇ノ中ニ入レヤウトスルノガ抑モ間違ノ
初マリデコンナコトヲ云フテ居ル間ハ到底成佛ノ出來ルモノデナイ
我宗トシテハ來世ノ有無ノ如クンバ姑ラク措キヌ即今是レ有カ是レ無カト云フ風
ニ來ルノダ俗人原ニハ分ルマイ分ラナケレバ「參ゼヨ更ニ三十年」ト來ルンダヨ
シカ

以上ノ如ク諸名士ノ回答ノ一致セサルハ何故ナリヤ是レ畢竟各自ガ平素ノ修養ヲ殊ニ
セル結果デアル從來宗教ニ緣故アル人ハ仮令未タ深キ信仰ニ至ラサルモ來世有ノ感
想ハ少年以來凝結シテ容易ニ去ルモノデナイ況ヤ深キ信仰アル人ニ於テヤ來世苦樂
ノ感想ハ嘗ニ來世ニ於テ我レヲ苦シメ又樂マシムルノミナラズ現世ニ於テ我レヲ苦シ
メ又樂マシムルホドノ實力ヲ有ツテ居ル即チ來世ニ往カズトモ既ニ現在世ニ於テ事實
上常ニ其ノ人ノ精神及ヒ行動ヲ差配スル力ノ盛然トシテ存在セルモ豈奚ゾ之ヲ否定シ

ヲ無ト云フ可ケンヤデア。

然ルニ從來未ダ嘗テ宗教上ノ經驗ナク又緣故ナキ人唯宗教上ニ何等ノ緣故ナキノミナ
ラス却テ之トハ反對ノ地位ニ立テル科學ノ研究ノミニ從事セル人ハイツトナク心ガ唯
物的ニ傾イテ來ネバナラヌ道理デアアル鹿ヲ追フ者ハ山ヲ見ズデアアル唯物論ニ傾ケル人
ガ未タ心靈界ノ妙ヲ考ヘズシテ無靈魂ト共ニ無來世ヲ即斷スルノモ亦實ニ無理ナラヌ
次第デアアル

四 教育家ノ僧侶佛陀ニ對スル感想

余ハ生來頑僻ノ性アリテ權勢ノ途ニ奔走シテ榮利ヲ爭フノ念ナク毀譽ノ間ニ出沒シテ
功名ヲ貪ムルノ情ナク唯終身陋巷ニ潛ンテ真理ヲ樂ミ草茅ニ坐シテ國家ヲ思フノ赤心
ヲ有スルノミ故ニ護國愛理ノ志アル教育家宗教家ト平素交リヲ結ヒ其ノ道ヲ聽クヲ樂
ミトナスモノデアアル故ニ屢々教育家宗教家ノ門ヲ敲イテ其ノ所說ヲ試ミルニ教育家ノ

處世上即チ世間門ノ話ハ誠ニ結構デアアル眞ニ面白イ然ルニ談偶々出世間門ニ涉ルト僧
侶佛陀ニ對スル感想ノ冷淡ニシテ乾燥無味ナルコトハ我輩ノ常ニ遺憾トスル所デアアル
是レ他ナシ前項ニ縷述セシ如ク教育家ハ科學思想ヨリ割出スニヨリ斯ク躁輕ニナルノ
モ亦尤ノ事ト思ハル即チ或教育家言ク「現代ノ僧侶ハ孰レモ皆ナ時代遅レノ愚說デア
ル決シテ世道人心ヲ扶ケテ世人ヲ教化スルノ價值ナシ宗教ハ惡イトハ思ハネド之ヲ傳
道スル僧侶ガ誤リテ居リハシナイカト思フ倫理ノ何タルヲ說カズシテ南無阿彌陀佛ニ
マカセバ罪アル者モ助ケテ吳レル障リアル者モ救フテ吳レル未來ニ於テハ佛ノ救濟ニ
ヨリテ屹度佛ニナルト云ハンモ我等ニ於テハ此ノ説明デハ満足ガ出來ナイドウモ難有
感ジモ尊イ感シモ起ラヌ今少シ說キ方ガアリハシナイカト思ハル宗教方面ハ未タ研究
シタ事ハナイケレドモ宗教ト云フ宗教ナレハ邪蘇教ニアレ天理教ニアレ人生問題ガ必
要デアロウト思フ故ニ結局人間ハ人間トシテノ務メヲ全フスレハソレデ宜シイ故ニ公
共的事業ナリ其他慈善事業ナリ何ニナリニ私心ヲ挾マヌ所謂俯仰天ニ愧チサル精神デ

世ノ爲メニナル事ナレバ仮令人ガ何ニト云フトモ少シモ願ミル所ハナイ眞面目ニ熱心ニ只自分ノ本分ヲ盡クス而已デアルト信ス」ト僧侶諸師以テ奈何ソヤ
吾輩ハ教育家ノ言ヲ聞テ無量ノ感ナキヲ得ズ依テ世ノ嘲笑モ願ミズ無學文盲ナルモ辨ヘズ此ノ稿ヲ起草セシ次第デアル

元來佛教ノ極意ハ甚深微妙ノ法ヲ説クニ説カレヌ以心傳心ノ譯ガアガソレヲズツト下ニ卸シテ考ヘテ見レハ教育家ノ云ハル、如ク今日ノ日日夜夜ノ起居動作ガ凡テ佛教ノ大意デアル遠イ所ヲ尋ネンテモ目前ニ明カナ事デアル一切經ヲ開クニモ及ハヌ我々ノ日日ノ行ナヒガ惡イ方ヘ向クトキ其レカ佛教ノ大意ニ背ク譯デアル少シデモ善イ方ヘ向ケバ佛教ノ大意ヲ得タト云ハネハナラヌ佛教ガ嫌ヒデモ仮令無宗教デアルト云ハル、人テモ君ニ忠親ニ孝仁義ハ大切ナ事デアルト心得善ノ方ヘ足ヲ向ケル人ハ法身佛ノ感ヲ蒙リタ人デアル嫌ヒヂヤト云フテモ今日諸惡莫作衆善奉行ト善イ方ヘ往ケバ論語讀マズノ論語讀ミ佛法嫌ヒノ佛法好キトナルノデアルト思フ所ガ宗教家ト云ハル、中

ニ佛法好キノ佛法嫌ヒガアリハシナイカト思ハル兎ニ角宗教家覺醒ノ時代ナラヌヤ

五 青年輩ノ僧侶佛陀ニ對スル感想

近來ハ何處トモ青年會發達シ到ル處ニ會所ノ設ケアリテ夫レノ事業ニ從事シツ、アル者ノ如ク見ユ然ルニ宗教的意味ヲ抱合シタル青年會ハ皆無ナリト云フモ過言ニ非スト思フ隨テ青年輩ニ宗教思想ノアル者ハ曉天ノ星モ雷ナラズ是レ先輩者ノ答テアル宗教ハ決シテ老人ノ專有物ニアラズ却テ青年ニ必要デアル然ルニ我ガ青年會員中ノ或一人ヨリ私ニ注告シテ言ク「君ハ口ヲ開ケバ宗教トカ佛教トカ精神修養トカ云ハル、モ耳ヲ傾ケル者ハ一人モアリマセヌ如何トナレバ僕ハ青年ノ代表者トナリテ申サバ元來未來ハ無イモノト心得ル所謂地獄ダノ極樂ダノハ全ク勸善懲惡ノ標的ニシテ釋迦ガ巧ニ處世ノ妙術ヲ授ケタモノデアル釋迦ハ一派ノ哲學者トシテハ尊崇スベキモ佛デアアルノ覺者デアアルト云フハ甚タ迷盲ノ言ナリ爾ルニ未來ヲ恐レ後生ヲ慮ルハ皆ナ是レ無

學ノモノ、妄信デアル迷信デアル故ニお寺へ參ルノ坊サンノ説教ヲ聞ク杯ハ恥カシイ坊主ナドハ嫌ヒヂヤ現代ハ優勝劣敗ノ時代ニアラスヤ」ト私ハコノ井蛙的ノ暴言ハ現今ノ青年社流ニハ能ク在ルコトヲ隣笑シツ、徐ロニ口ヲ開テ「ソレハ大ニ活潑ノ御意見デアル男子トアレバソレ位ノ氣性ハ保テ居ラネバナルマイシカシナカラ古今ノ學者豪傑ニ信念ノナイモノハ殆ンドナイ英雄神佛ヲ信スルカ神佛ヲ信スル者英雄トナルカト云フ程英雄ト神佛ノ關係深厚ナリ之ヲ歷史上ヨリ話サンハ先ツ武勇絶倫ノ大將平氏ノ宗家貞盛(以下信仰ノ事蹟ヲ舉ルハ繁ヲ省キ略ス)智勇兼備ノ重盛及ヒ源家ノ宗祖滿仲頼義等降リテ北條氏ハ如何泰時時頼時宗等ノ信佛家タルコトハ人ノ知ル處又武士道ノ摸範忠臣ノ鑑タル楠正成公ノ綸命ヲ奉シ帝城ヲ發シ湊川ニ到着シ軍旅ノ醫王山ノ麓ニ屯シ明極禪師ニ參見セシ事蹟及ヒ征夷大將軍徳川家康公ノ登譽上人ヨリ妙計ヲ授カリシ等一一枚舉スルニ遑アラズ近世ニ至リテハ世界ニ雷名ヲ轟カシタル無神家ノナボレランモ臨終ニ神ヲ信シ無佛家タル中江篤介モ病急ナルキ電話ヲ以テ雲照律師ノ法話ヲ求メシニ非ズヤ

故ニ人生ノ先決問題ハ死ノ問題解決ガ必要デアルソクヲアリスモ哲學ハ死ノ問題ヲ解決スルモノダト説キ宗教モ亦死ノ問題ヲ解決スルモノデアル而テ佛教ハ人生ノ根本問題即チ吾人生ノ由テ來タルトコロヲ尋ネ又死ノ去リ往クトコロヲ究メ(原人論ヲ一讀スヘシ)宇宙問題即チ眞如緣起ト云ヒ或ハ法界緣起ト稱シ又ハ六大緣起ト云フガ如キ説明ニ運用シ來タレル者デアルユヘ日本外史ヤ靖獻遺言ヲ見ルヨリハ面白イカラ宗教ヲ研究シテ御覽ナサイ食ハズ嫌ヒデハコマル」ト申シタコトデアル

六 一般人ノ佛陀ニ對スル感想

一水四見トテ吾人ガ見テ水ト思ヘルモノヲ天人ハ見テ之ヲ瑠璃ト想ヒ餓鬼ハ見テ之ヲ火ト想ヒ魚ハ之ヲ以テ吾ガ家トナスト云フコトデアル佛陀ノ如キモ又一水四見ノヤウナ工合ニ其ノ人ニ依テ色々ニ之ヲ見ル人ガアルニ相違ナイ或ハ馬鹿ラシクテコンナモノハ見ルモイヤダト云フヤウナ人モアラウ或ハ御伽噺シデモ聞クヤウナ氣ガスルト云

フ人モアルデアラウ或ハ小説的假作デアルト云フヤウナ人モアルデアラウマタ中ニハ恰モ孝子ガ自分ノ親ノ傳ヲ讀ムヤウナ心ヲ以テ經典ヲ迎ヘ慶ビ勇ンデ之ヲ讀ミ大ニソノ心ヲ慰ムル人モアルニ相違ナイ何事モ因縁次第ト云フヤウニ人ノ心ハ面容ノ如ク皆違フテ居ル隨テソノ信仰チ一ニスルコトハ容易ノモノデアイ否到底不可能デアル乎

七 食ハズ嫌ヒ

子供ノ多クハ少シ變ツタモノヲ見ルト食フヲ見モセズニアタマカラ嫌ヒヂヤト云フモノデアアルガコレハ強チ子供バカリデナイ世間ニハ澤山食ハズ嫌ヒノ者ガアルト思フ一體如何ナモノデモ趣味ノ無イモノハ無イノデ他ノ人々ガ熱心ニ凝リ固マツテヤツテ居ルモノナラ必スソレニハ何等カノ妙味ガアルニ違ヒナイノデアアル宗教即チ佛教ノ如キモ已前ニハ食ハズ嫌ヒガ多クツタガ今デモマダ大分アルヤウデアアル斯ノ如キハ實ニ燥輕ナコトデアアルカラ善ク食ヒシメテ味ハツテ見テ然ル後ニ自分ノ氣ニ向カナイナラ

バ嫌フガ宜イ兎モ角一ツ食フヲ見ナイコトニハ好キカ嫌ヒカ判ルモノデハナイ

宋ノ時代ニ張天覺ト云フ人ガアツタ或時寺ニ行テ一切經ヲ見タ處ガ例ノ七千餘卷モアル大部ノモノデアアツテソレヲ舐ニ入レテ立派ニ棚ニ飾ツテアツタ然ルニ張天覺ハ儒教ヲ學ンデ孔子ヲ非常ニ崇拜シテ居ルカラ此釋尊ノ大部ノ經卷ヲ見テ頗ル面白クナイ感情ガ起ツタ早速家ニ歸リテ其夜ハ物ヲ考ヘテ寢ニ就カナイソコテ細君ガ「如何ナル理由デソウオ考ナサルノデス」ト問フタトコロガ張天覺ハ少シ考ヘコンデ「已ハ今無佛論ヲ書コウト思フテ居ルノデヤ」ト答ヘルト細君ハ伶俐ナ人デアツタト見エテ直チニ「無佛ト云フナラ已ニ論スル必要ハアリマスマイ」ト云フタノデ一寸鋒先ヲ摧カレテ其時ハ遂ニ論ヲ書タコトヲ止メタ其後自身ノ友達ノ宅ニ遊ヒニ行ツテフト机ノ上ヲ見ルト維摩經(私先年コノ維摩經ノ講義ヲ木津先生ヨツ聞キマシタ頗ル面白イ御經デア)ルト維摩經(ル維摩ト云人ハ居士即チ俗人デアリナカラ大乘佛教ヲ弘メタ人デア)ガ載ツテ居ル何トナシニ手ニ取ツテ一ニ枚ヲ讀ンデ見ルト如何ニモ面白イノデ讀ミカケテ歸ル氣ニナレナイソレデ友ニ貸シテ呉レル様ニト云フテ持チ歸リ眞劍ニナツテ熟

讀シテ居ルコレヲ見タ細君ハ又不審ニ思ウテ「何ヲ御勉強ナサルノデスカ」ト尋ネルト「イヤ維摩經ト云フテ釋迦ノ説イタ書デアルガ讀ンデ見ルト至極面白イ」ト云ツタスルト細君ガ「サーソウ云フ書物ヲ好ク讀ンダ後無佛論ヲオ書キナサレタラ宜シウ御座リマセウ」ト云ウタノデ如何ナ張天覺モ其ノ言葉ニ對シテ慄然トシタ已來佛教ヲ研究シテ遂ニハ非常ナ佛教信者ニナリ彼ノ護法論三卷ヲ書イタ此書ハ日本デ翻刻ガ出來テ廣ク行ハレテアル

此張天覺ノ如キモ初メハ實ニ食ハス嫌ヒテアツタガフトシタ處カラ味ヲ嘗メテ見ルト云フニ云ハレヌ微妙ノ味ガアツテ遂ニハ止メラレナクナツタノデアアルデ今日ノ人々モ初メカラ嫌ヒト云ハスニ少シハ縋イテ見テ貫ヒ度ヒモノデアアル

八 來世有リト信スルト無シト信スルト 孰レガ勝利ヲ得ルヤノ目ノ子算用

古哲曰ク「雨ニ旅立タザレドモ箆笠ヲ持ツ事ハ末ニフル雨ヲ雨有リト兼テ知ルタナラ

スヤ」ト此訓言ハ申ス迄モナイ人間トシテ遠キ慮リナクテハナラヌゾヨノ御誠デアアル來世ノ有無ニ就テハ經驗ト認識法ナキ故ニ未解決トスルモ第三項ニ陳述セシ如ク科學進步ノ今日ト雖モ來世有リト信スル者七八分ヲ占ム然レドモ科學者ニ一步ヲ讓リテ五分ノ議論トシタイヅレ共別ランコトデアアル齋シク別ランレスクナレハコケシラスノ目ノ子算用テ來世有リト信ジテ箆笠ノ用意ヲナスノ勝利デアルト思フ來世無シト信ジテ箆笠ノ用意ナキモノ風雨ニ會セハ困難奈何ソヤ如何ニ世界一等國ノ男子デアルト氣張リテ見テモ更ニ其ノ詮ナク雨ハ用捨ナイ故ニ吾輩ハ末ニ雨アリトシテ宗教ヲ信スルモノナリト云ハ、或人難ジテ言ク君ノ説ノ如キ横着ニテハ決シテ信仰モ信念モ立ツモノテナイト詰ラレタリ余ハ一笑ヲ以テ答トナセリ

九 倫理上宗教ヲ信ゼザルヲ得ズ

倫理問題モ亦喧シイ大問題ニシテ一朝一夕ノ談ニ決シテ盡セルモノヲナク加之ナラス

淺學ナル我等ニ於テハ實ニ短梗ノ深井ニ及バステアル且ツ今ハ之ヲ詳述スルノ遑モナク只々平素佛教ニ示セル教訓ニヨリテ修養シツ、アル大海ノ一滴ヲ述マテ我ガ青年諸氏ノ反省ヲ促サントス

從來倫理道德ト云ハ儒教ヤ道教ヲ即チ論語孟子老子經等ガ標準トナツテ居ツタヤウニ思ハル所ガ現今ハ西洋倫理學ガ喧シクナツテ來タ而シテ西洋ノ倫理學者ハ道德ノ標準トシテ快樂主義、克己主義、自我實現主義ト云フ三說ニナツテ居ル様テアル之レヲ宗教即チ佛教ノ門ニ入テ尋ヌルト西洋倫理ヤ東洋倫理トハ異ナリテ居ル佛教ノ上テハ強テ之レガ標準ヲ立ツレハ慚愧心ヲ以テ道德ノ標準ナリト申シテモ差支アルマイト思フソコテコノ慚愧ニ就テ少シク述ブレハ羞恥廉恥ハチルト云フ事テ此ノ慚愧ヨリ出ル行ハ凡テ善ト云フテ可ナリテアル隨テ無慚愧無廉恥心カラ起ル行ハ凡テ惡テアル故ニ道德ノ標準ヲ計ル階段ハ慚愧心テアル慚愧ハ吾人ノ道德ノ程度ヲ計ル尺度テアル佛教ノ御經ノ上ニハ數々慚愧ノ説ガアル人間ガ何故動物ト異リテ君臣父子ト云フ各自本分

ヲ守テ秩序ガ付テ社會ガ安寧ニ治マルカト云フニ要スルニ人間ニハ天然ニ二ノ寶ヲ持テ生レテ居ル其ノ二ノ寶トハ一ハ慚ニハ愧デアルコノ二ノ重寶ガナカッタラ人間ハ牛馬豕犬ト何ゾ異ランヤト説カレテアル又遺教經ニハ慚愧アル者ヲ名ケテ人トス慚愧ナキモノハ飛禽走獸ニ近シト説キ遺サレテアル又各宗ノ祖師方モ慚愧懺悔ノ心ヲ起セト絶叫セラレテ居ル法律上デモ自首シタ者ハ罪ガ輕クナル自首ト云フガ早ヤ慚愧心カラ出タモノテアル羞カシイト云フ感ジノナイ人間ニ立派ナ者ハナイ然ラハ我々ハ慚愧心ノ修養ト云フ事カ最モ肝要テアル慚愧心ノ修養ニハ教育ト云フ事モ亦有効デアル智識カ進步スレハ隨テ慚愧心ガ發達スル野蠻人ヨリハ文明人兒童ヨリハ成人無教育者ヨリハ教育アル者ガ慚愧心ガ強イ依テ教育モ慚愧心ヲ修養スル一ノ方法デアル特ニ宗教ヲ聽聞スルコトハ我々ヲシテ慚愧心ヲ修養スルニ大ナル力ガアル殊ニ無教育ノ者ニアツテハ宗教ヲ聽聞スル外ニ慚愧心ヲ養成スル方法ハ更ニナイト思フ義務教育ノ六年ヤ八年位ガ五十年ノ人生ニ對シテドレ程ノ效能ガアルデシヨウカ加之道德ト云フモノハ

數學ノ様ニ一度知ツタラ夫デ宜イト云フ譯ニハマイラヌ道德ニ至ツテハ一ツ事ヲ幾度モ繰リ返ヘサネバナラヌ又幾度繰返シテモ飽カヌモノデアルソコデ其ノ幾度モ繰返シテ居ル内ニ興味趣味ト云フモノガ出來テクル依テ道德ハ教育モ必要デアルケレドモ宗教ヲ聞ク事が最モ必要デアル

ナゼニ倫理上宗教ヲ信スルノ必要ヲ認ムルカト云ヘハ宗教ハ何レモ靈知ニマシマス本尊ガアル而メ本尊ハ見聞知ハ三ツヲ備ヘテ御坐ルト信スルカラ人が知ロウガ知リマイガ本尊ヲ相手トシテ居ル故倫理道德ニ根底ガアル兎角宗教ト云フモノハ非常ニ精神ヲ支配スル實力ガアル之ヲ要スルニ普通倫理ナル者ハ人々相互間ニ於ケル行爲デアルコトニ反シテ佛教倫理ナル者ハ人ト人以上ノモノト精神的結合スル状態ヲ云フノデアアル依テ吾輩ハ佛教倫理ニヨリテ慚愧心ヲ修養シ又ハ人ニ向ツテ精神修養トカ宗教信念ヲ勸望シテ止マヌ所以デアル

十 佛教徒ノ覺醒ヲ促ス

佛教ハ宇宙ノ大眞理ノ上ニ成立セルモノニシテ釋迦出現セズトモ眞理ハ眞理ヲ確然不動一定不變ノモノデアル而メ其之ヲ佛教ト名ツクルハ釋迦ガ宇宙ノ大眞理ヲ發見セシニヨル故ニ哲學者ヲシテ彌々舌ヲ卷カムシル所ノ大宗教デアル然ルニ時世ノ變遷トデモ申スベキ乎既ニ其ノ起レル印度ニ滅ヒ續テ一時大勢力ヲ振フタ支那朝鮮ニ亡ビ更ニ又我ガ日本ニ於テモ其領土ヲ掠メラレヤウトシテ居ル抑如何ナル原因デ有ロウカ元ヨリ種々複雑ナル原因ノアルニ相違ナイケレドモ一ツハ前陳ノ如ク科學思想ノ發展ニ因ルモノト思ハル今一ツハ基督教ガ未來ヲ説クト共ニ常ニ現代ヲ説キ先ツ現代社會ヲ救ハウトスルノト我カ佛教ノ談カ何時シカ未來ニノミ流レテ事實上非現代的ニ傾キタルモ慥カニ大原因ニ相違ナヒト思フ故ニ宗教家タルモノ時代ノ變遷ヲ鑑ミ大ニ覺醒スベキ時代ナラズヤ

十一 教育ト宗教トノ調和

前來陳述セシ各項ハ何レモ教育ト宗教トノ調和ヲ主トシテ論シタルモノナレバ重ネテ茲ニ論スル必要ナシト雖モ聊カ遺漏ノ点アルヲ以テ更ニ兩者ノ調和ヲ計ラントス從來一般ノ教育家ハ宗教家ヲ評シテ曰ク（宗教ハ種々アルモ茲ニハ佛教ヲ云フナリ）而メソノ佛教中殊ニ我カ浮士眞宗ヲ指ス）「現代ノ說教ブリハ無學文盲ナル愚夫愚婦ヲ瞞着シテ厭世心ヲ養成スルカ又ハ惡人ヲ增長セシムルカ如キ說教ニシテ決シテ世ノ爲メニナルトハ思ハレヌ却テ世ニ害毒ヲ流シハセマイカト思フ」トコノ批評ハ教育家タルモノ、皆一轍デアルコレハ一應ノ道理ヲ知テ再應ノ道理ニ達シナヒト申サネバナラヌ即チ世間出世間共只一應ノ道理ダケデスムモノデナヒ總テ道理以外ニ道理ガアル百尺竿頭更ニ一步ヲ進メネバ其ノ蘊奧ヲ究ムルコト難シト思ハル依テ教育家ハ宗教家ニ對シ之レカ解決ヲ要求スレバ頗ル面白クシテ且ツ吾人ヲシテ傍聽セシムルナラバ說教聽聞ニ數倍勝レリト思フ若シ夫レ此ノ問題ヲ等閑ニ附シ未解決ニ終ラバ教育ト宗教ノ融合スル時節何時カアラシヤデアアル猶又宗教家即チ僧侶側ニ在テハ教育家ノ說ナドハ現象界物質的ニシテ甚ダ淺薄ナリ我カ佛

教ノ深遠ナル本体論精神の方面ノ說ハ到底共ニ語ルニ足ラスト言ハンバカリノ躰度ニ構ヘスシテ第二項ノ奥田大臣ノ趣旨ヲ体シ兩者表裏相須テ世人ヲ教化スル事ニ努メテ以テ効果ヲ奏シ國家ニ貢獻スル所アレバ實ニ忠君愛國ノ本旨ニ協ヘリト思フ嗚呼思ハズ感慨ノ餘リ身ノ分限モ顧ミズ難問題ニ立チ入り之レガ調停ヲ試ミントスルガ如キハ見識アル諸師ニ對シ慚愧ノ至リニ堪ヘズ夫レ之ヲ諒シ給ハソトヲ

十一 精神的紀念事業ノ方法ヲ論ス

御即位御大典奉祝紀念トシテ到ル處ニ物質的事業ノ計畫アリ然ルニ我ガ青年會ニ於テハ精神的事業ヲ起シテ衰頹セル倫理道德ヲ挽回シテ純厚ナル風俗ヲ作ラント素ヨリ結構ナルコトデアル然リ而メ其事業ノ方法ノ如キニ至リテハ各自ノ修養ヲ異ニスレバ隨テ意見ノ不同ナルヲ免レズト雖モ之ヲ要スルニ本論第一項第二項ノ通り政府ノ方針ヲ遵守シ宗教ヲ基トシタル事業ヲ起シ以テ教育ト宗教ト相須テ世道人心ヲ扶持スルノ

急務ナリト思フ然ルニ現代ノ風潮ハ教育宗教ハ放任主義ニシテ政治ノ一方ニ偏シ村會議員ヲ始メトシ郡會議員縣會議員國會議員等ノ撰舉當時ノ有志者ノ動作ハ如何ソヤ今更喋々ヲ要セズトモ思ヒ半ニ過グルデアロー之レニ反シテ教育上ニ關スル有志者ノ態度如何ソヤ大切ナル兒童ヲ全然學校教師ニ一任シテ少シモ顧ミズ甚タシキニ至リテハ學校教育ヲ家庭ニ於テ打チ壞ハス者モナキニ非ズ父兄タルモノ學校教授ノ參觀ニ出ル者幾人アリシヤ實ニ學校教育ト家庭教育ノ連絡一日モ忽ニスベカラズデアアル猶又宗教上ニ關シテハ之レヨリ一層無頓着ノヤウ思ハル宗教ト云ヘバ直グ未來問題トシテ棚ニ上ル決シテ宗教ハ未來ノ事バカリ説クモノニアラズ現世ニ於テ最モ必要デアアル又現世ニ必要ナル事ヲ説イテアル御經ハ澤山アル閑アレバ六方禮經過度人道經等ノ御經ヲ緋イテ御覽ナサレ誠ニ如何ナル人ニテモ精神ヲ貫イテ感スルコトデアアル然ルニ佛教ハ未來問題ナリトシテ放任スルハ抑何處ニ起因スルカ即チ佛教ハ主トシテ生死問題ヲ説ク故デアロート思フコノ生死問題ハ極メテ大問題デアアルカラ所謂大聲ハ俚耳ニ入ラズデ

アル思フヲ茲ニ至ラバ痛恨措ク能ハス古人曰ク「憂世ノ甚タシキ時ハ人以ヲ狂人トセザレハ病痴人トナス笑ハザレバ怒ル」ト依テコノ邊ニテ擱筆セントスルニ當リ傍ラヨリ紀念事業ノ方法如何ソヤ君ノ説ハ不得要領ナリレールハヅレノ説ナリト詰ル者アリ即チ余答テ曰ク決シテレール脱レニアラス事業方法ハ前來ノ説ヲ充分ニ了得セシモノニアラサレバ駄目デアアルカラ容易ニ要領ヲ申サンノデアアル結局ハ一言ニテ盡クス則チ他ナシ紀念事業トシテ毎歲天下ノ大家ノ招聘シテ大講演會ヲ開キ主トシテ學校教員役場吏員村會議員軍人會員青年會員等舉テ聽講スル而已矣

十二 結 論

吾輩ハ現内閣總理大臣大隈重信伯閣下ノ理想トセラル、眞ノ文明トハ文武ト宗教ノ信念ニ在リト深ク信スル者デアアル故ニ護國ノ志アル教育家政治家及ヒ在郷軍人等諸士ノ同意ヲ得テ一夕月明風清ノ時ヲ待テ共ニ大講演會ヲ開キ教育、宗教ノ本旨ヲ聞キ護國

愛理ノ策ヲ講シ以テ中流社會ノ人士ニ於テ之ニ依テ活動シ實行スルノ幸運ニ至ラハ期
 セシテ模範村タルノ効果ヲ舉クルコト決シテ難キニ非スト信ス是レ余ガ此論ヲ起草
 セシ本志ナリ人誰レカ生レテ國家ヲ思ハサルモノアランヤ人誰レカ學ンテ真理ヲ愛セ
 サルモノアランヤ余ヤ鄙賤ニ生レ草莽ニ長シ加フルニ菲才淺學ナルモ亦敢テ護國愛理
 ノ一端ヲ有セサルモノニアラス家貧ウシテ弊衣凍寒ヲ防クニ足ラスト雖モ幸ニ此心ノ
 存スルアリテ滿身爲メニ煖ヲ加ヘ菲食飢渴ヲ支フルニ足ラスト雖モ又幸ニ此心ノ盈ツ
 ルアリテ全身爲メニ肥ユルヲ覺フ嗚呼我ヲシテ生存セシムルモノハ此心ナリ我ヲシテ
 活動セシムルモノハ此心ナリ此心アリテ我カ生命アリ我レ豈此心ヲ守ラサルヲ得ンヤ
 我レ豈ニ此心ノ爲メニ盡クサハルヲエンヤ

精神的紀念事業論畢

大正四年十二月十日印刷
 大正四年十二月十五日發行

香川縣仲多度郡六郷村大字今津八十一番戶

著作兼 發行者 大 西 唯 治 郎

香川縣仲多度郡善通寺町大字善通寺四百四十二番地

印刷者 樋 笠 彦 治

香川縣仲多度郡善通寺町大字善通寺四百四十二番地

印刷所 樋 笠 鶏 鳴 堂

325
384

終